

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。  
 ★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。  
 ★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。  
 ★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。



# News Letter

2022年10月1回号 発行: 常総生協広報G



2022-23年度活動テーマ(案)「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」

## 厳しい状況下でも将来の若者に未来を懸ける ミャンマーの現状について組合員からの報告 (寄稿)



↑ Myanmar International Film Academy (MIFA) の学生と代表のアウン・コ・ラッさん (右から5番目)

↑ 常総生協と有志からの千羽鶴

ミャンマーで国軍がクーデターを起こしてから1年8カ月が過ぎようとしています。  
 この間のウクライナ情勢もあり、時間が経つにつれてミャンマーの報道がとても少なくなりました。  
 しかし、ミャンマーの人々がとても厳しい状況に置かれていることには変わりありません。

昨年6月、常総生協でミャンマーについて学ぶ学習会「～みんなで関心を持とう～ミャンマーの歴史と今を知る」を開催いたしました。

会終了後、千羽鶴をミャンマーに送る呼びかけと併せて、「実は、組合員の皆さんに紹介したいミャンマーの映画があります」と当日講師を務めていただきました荒木義宏さん(柏市在住・常総生協組合員)から提案がありました。会場からも「ぜひ映画会、実現させたいですね」とご意見頂きました。しかしこのコロナ禍で残念ながら開催出来ていません。

そこで今回、現在のミャンマーの様子と併せて、苦境を乗り越えて未来に向けて動き出した、あるミャンマー人を荒木さんからご紹介頂きます。

| ●生協基幹運営／地域活動 ・ 催し●                                                                                                                  | ●提携 ・ 協同 ・ 連帯企画●                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9/24(土) 水海道のめぐみちゃん 稲刈交流会</li> <li>・ 9/28(水) 定例理事会</li> <li>・ 10/8(土) 島香さんのお魚講習会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10/1(土) JCO臨界事故23周年集会</li> <li>・ 10/5(水) 原告団 世話人会</li> </ul> |

## 組合員寄稿 “ミャンマーは今” 厳しい状況下でも 将来の若者に懸ける（1）

～映画監督のアウン・コ・ラッさん～

荒木義宏（柏市組合員・元ジェトロ（日本貿易振興機構）ヤンゴン事務所長）

昨年2月のクーデターから1年半以上が経ちました。常総生協さんのご協力を得て平和への願いを込めて送った1万羽以上の千羽鶴、今もヤンゴン市内にあるライブラリーに飾られて来場者に安らぎを与えています（1ページ参照）。

しかし、ミャンマーの政治・社会・経済の状況は一層悪化しているようです。ウクライナ戦争の陰に隠れて、最近ではミャンマーのニュースが報道される事が稀で、現地事情を知る事が難しくなっています。これは軍政当局がSNSを含めて情報統制を一層強化している事他に、人々の間に増幅された分断と相互の不信感、長期にわたる緊張ゆえの疲労の蓄積、将来に対する不安感が一層募っている事も否めません。しかしどんなに厳しい状況下にあっても人々は日々の生活を逞しく続けています。いつまでも悲嘆にくれてはおられず、将来に向かって前向きに動き始めた人も少なくありません。

### ～クーデターでビジネスは激変～

**Aung Ko Latt（アウン・コ・ラッ）さん**、68歳。ミャンマーのロックミュージック界のレジェンドで、同時に気鋭の映画監督でもあります。彼は今年の春になって突然、空港近くのスタジオを兼ねた自宅を大改装しました。彼の積年の夢だった映画の専門学校を設立するため、それを**Myanmar International Film Academy（MIFA）**と名付けました。



ミャンマーは1960年代からほぼ半世紀の間国軍が主導する軍事政権が続き、新聞・雑誌、出

版、映画、放送事業など情報産業は厳格な国家管理下にありました。また**80年代末期までの20年間は鎖国していた**ので、海外の最新の映像・音響技術が入手出来ず、映画界は大きく立ち遅れていました。しかし2015年頃から始まった急速な経済発展で、最新の外国製VTRカメラがどっとミャンマーにも流入し、にわか仕立ての映画監督がハンディカメラで安価に映画を粗製乱造し始めます。映像技術の基本も知らずうわべだけのテクニックで撮られた映画の氾濫に危機感を覚えた彼は、「映画人材を育成する専門学校が絶対必要です」と口癖のように語っていました。

クーデターが起こるまでは彼のビジネスは順調だったようです。民間企業のTV・CMの制作依頼はひっきりなしで、ネットで配信される企業のデジタル・イメージの市場も急拡大していました。彼が審査委員長を務める新人歌手発掘の公開オーディション番組「ミャンマー・アイドル」は高視聴率を稼ぐ民放の人気番組で、毎週のTV出演で彼は見事に「音楽界に復活」を果たしました。

ところが新型コロナの感染拡大に加えて、クーデターが追い打ちをかけ経済活動は大混乱に陥り、民間企業からのCM製作依頼はパタッと来なくなりました。10名近くいた社員には半年間は給与を払い続けましたが、その後は1～2名を残してやむなく一時帰休にせざるを得ませんでした。

今年の2月以降のウクライナ危機に伴う世界的な経済の混乱はミャンマーにも波及し、ガソリンやディーゼル油の価格急騰は企業活動のみならず一般の市民生活にも深刻な影響を及ぼしています。また現地通貨のチャットの対ドル・レートは今年9月初めに1ドル＝4000チャットまで下落して**輸入品価格がさらに高騰**、治安情勢の悪化で国内の物流網も混乱し、**国内自給できる米や野菜の値段も急騰**しています。

厳しい状況下での専門学校の船出でした。彼は敢えて授業料を取って学生を募集しました。無償だと双方にある種の甘えが出てきて、教える方も、学生の方も真剣さが失われると思ったのです。しかし実際のところ彼自身も資金が必要だったのでしょう。「今は皆生活が苦しい。でも将来のためならと考えて学生は皆解ってくれています」と監督は言っています。既に2期を終えて21名の卒業生を送り出しています。

（次回に続く）



8/8 (月)、常総生協本部組合員活動室とオンラインにて、HPVワクチンの上映会&学習会を開催し、22名の参加がありました。「私たちの声を聞いてください! 子宮頸がんワクチン被害者は訴える」を鑑賞し、子宮頸がん、HPVワクチン、副反応による症状と現状について知ることができました。

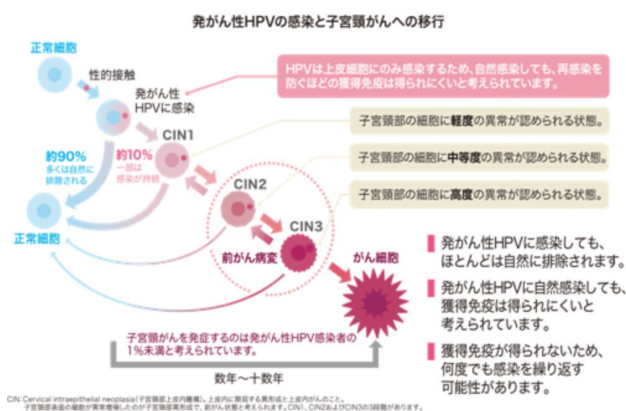
## ● 子宮頸がんとは

子宮の入り口に出来るがんで、子宮頸がんの95%以上は、ヒトパピローマウイルス (HPV) というウイルスの感染が原因です。子宮頸部に感染するHPVの感染経路は、性的接触と考えられます。HPVはごくありふれたウイルスで、性交渉の経験がある女性のうち50%~80%は、HPVに感染していると推計されています。性交渉を経験する年頃になれば、男女を問わず、多くの人々がHPVに感染します。そして、そのうち一部の女性が将来高度前がん病変や子宮頸がんを発症することになります。

HPVに感染してから子宮頸がんに進化するまでの期間は、数年~数十年と考えられます。HPVに感染した女性の一部は、感染細胞が異常な形に変化して、前がん病変を発症します。HPVの作用による細胞の異常は、軽い異常 (軽度前がん病変) が起こり、その中の一部は、さらに強い異常 (高度前がん病変) に進行します。年間11000人が罹患し、2800人が亡くなっています。

## ● ヒトパピローマウイルス (HPV) の種類

HPVは現在100種類を超える型に分類されていますが、その全てが子宮頸がんの原因になるわけではありません。主に子宮頸がん発生に関連するHPVは13種類(16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68)であるとされハイリスク型と呼ばれています。このほかに良性病変であるイボやコンジローマの原因となる2種類の型(6、11)の感染が日常の臨床上で問題となります。



## ● 子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)について

1980年 ヒトパピローマウイルスの研究により、ワクチンの開発が始まり、アメリカ国立衛生研究所の研究者によって開発され、ラスカー賞 (アメリカのノーベル生理学賞、医学賞) 受賞。HPVワクチンの臨床試験は驚異的成功、疫学上の満塁ホームラン

と称えられました。2006年にFDA (アメリカ食品医薬品局) で認可されました。

HPVワクチンは100種類を超える型があるHPVのうち、数種類の型のHPV感染を予防します。

(予防効果は70%) 既に感染した細胞からHPVを排除したり、感染した病気の進行を止める効果は無いとされているため、初めての性交渉を経験する前に接種することが最も効果的とされています。

### <現在日本で承認されているHPVワクチン>

| 種類         | 2価HPVワクチン            | 4価HPVワクチン                    | 9価HPVワクチン                   |
|------------|----------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 薬名 (製薬会社名) | サーバリックス® (MSD社 アメリカ) | ガーダシル® (グラクソ・スミスクライン社 イギリス)  | シルガード9® (MSD社 アメリカ)         |
| HPVの型      | 16、18型               | 6、11、16、18型                  | 6、11、16、18、31、33、45、52、58型  |
| 投与方法       | 筋肉注射 (3回; 0/1/6ヶ月)   | 筋肉注射 (3回; 0/2/6ヶ月)           | 筋肉注射 (3回; 0/2/6ヶ月)          |
| 予防効果       | 子宮頸がんの発生予防 70%       | 子宮頸がんの発生予防 尖圭コンジローマの発生予防 70% | 子宮頸がん発生予防 尖圭コンジローマの発生予防 90% |
| 承認販売年      | 2009年                | 2011年                        | 2021年                       |

※一部接種が進んでいる国での調査報告で子宮頸がんそのものへの予防効果も報告されている

2009年 サーバリックス承認

2010年 緊急促進事業として積極的勧奨開始 国が接種の公費助成開始

2011年7月 ガーダシル承認

2013年4月 予防接種法の改正により、定期接種の開始。

※予防接種法にヒトパピローマウイルス感染症が追加され、定期接種になる。そのため自治体には接種を呼びかける努力義務が生じた。

※自治体が接種対象者に強制するものではなく、納得したうえで接種に協力。

※厚労省も義務とは異なり、皆様にご協力いただきたいと言う趣旨です、と説明。

2013年6月 厚労省が積極的勧奨中止（無料で接種できるが国は接種を積極的に勧めない）

2016年7月 副反応を訴える女性達(15歳～22歳)が、4地裁(東京、大阪、名古屋、福岡)で国と製薬会社に損害賠償を求めて提訴

2021年8月 厚労省専門部会では国内外の調査により以下の結論

①有効性について子宮頸がんそのものを防ぐ効果が海外の報告で示された

②接種後に生じた症状とワクチンの関連性に科学的根拠はない

2021年11月 厚労省副反応検討部会で積極的勧奨の再開が承認

2022年4月 厚労省が積極的な接種勧奨を再開を決定、自治体に通知

補足；定期予防接種を受けることは、以前は義務とされていましたが、現在の法律では、人から人に伝染することによる感染症の発生やまん延を防止するため、又は重症化するおそれのある感染症の予防やまん延防止のため予防接種が必要とされる病気（A類疾病）について、国民は予防接種を受けるように努めなければならないとされています（努力義務）。したがって、接種を受けるかどうかを最終的に決めるのは、接種を受ける本人又は保護者となります。

#### ●副反応について

厚労省から発行されているリーフレットには各ワクチンの添付文書（右記の表参照）が掲載されています。また、まれに重い症状；アナフィラキシー、ギラン・バレー症候群(手足の力が入りにくい)、ADEM(急性散在性脳脊髄炎；頭痛、吐き気、意識低下)が起こることがあると掲載されています。現在、ワクチン接種後、多様な症状が報告されています。

①知覚に関する症状（頭や腰、関節等の痛み、感覚が鈍い、しびれる、光に対する過敏など）

②運動に関する症状（脱力、歩行困難、不随意運動など）

③自律神経等に関する症状（倦怠感、めまい、睡眠障害、月経異常など）

④認知機能に関する症状（記憶障害、学習意欲の低下、計算障害、集中力の低下など）

この多様な症状は長期的、複合的に起こっています。そして、治療法は確立されていません。

頻度としては、接種後に生じた症状報告頻度が1万人に10人、重篤症状の報告頻度は1万人に6人（1666人に1人）です。これは、他の定期接種(12種類)の平均値の9.9倍、重篤症状報告頻度は8.53倍。HPVワクチン障害・死亡認定状況は他の定期接種の平均値の15.7倍と極めて高くなっています。

また、過去に行われたMMRワクチン(無菌性髄膜炎)の重篤な副反応は1200人に1人で中止になった例があります。

しかしながら、厚労省による副反応検討会では、このような多様な症状は「ワクチン接種との因果関係がある」という証明はされていない、とし、広範な痛みと運動障害は注射の痛みとそれに対する恐怖心が起こす心身の反応であると結論づけられました。そのため、2013年、わずか二か月で積極的勧奨を中止したHPVワクチンですが、2022年に再開されました。

※次回は「副反応に関する被害補償」、ドキュメンタリー映画監督 澤則雄氏からのメッセージなどをお伝えします。(10月2回Newsletter掲載予定)

常総生協  
まつりの

### チラシ配布やポスター掲示にご協力ください

8月5回のニュースレターでお知らせしましたとおり、今年のおまつりは11月5日(土)に生協本部にて行います。皆さんのお住まいの地域にもおまつりを広めて頂けませんか？生協の供給エリア内にあるお知り合いのお店や施設等におまつりのチラシを設置したり、ポスターを掲示して下さる方、是非ご協力ください！チラシやポスターを供給便にてお届けしますので、必要枚数をお知らせください。下の用紙を注文書と一緒にお願いいたしますか、本部に直接お電話にてご連絡ください。チラシ・ポスター共両面印刷になりますので、裏面も貼っていただける場合は一か所につき2枚請求してください。

※チラシ・ポスターは供給便でのお届けです。設置場所にはご自身でお持ち込みをお願いします。

----- キリトリ -----

コース名： \_\_\_\_\_ 組合員番号： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

チラシ（A4サイズ）： \_\_\_\_\_ 枚      ポスター（A3サイズ）： \_\_\_\_\_ 枚

お申込み・お問合せ 電話：0297（48）4911

※締切 10月14日（金）まで